

(第7号様式の2)

事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

1 事業名	食ま〜るプロジェクト 「食べ物から生まれる安心感と人とのつながりを家庭に届ける」事業
2 事業実施期間	令和 4 年 7 月 ~ 令和 4 年 10 月
3 事業実施内容 *具体的に記入してください。	(実施日、場所、対象者、参加人数、内容、周知方法など) ①実施日 2022年7月 ~ 令和4年10月14日 ②実施場所 本助成金で食品を購入し、保管管理分配をNPO法人フードバンクカンドハーベスト沖縄事務所で行い、那覇市を中心とした連携している福祉などの窓口を通して、個人世帯に行った。 ②対象者 対象：7~10月14日までの那覇市を中心とした県内在中の個人世帯 ③内容 コロナ禍でより不足している食品を本助成金で購入した食品や寄付食品を、必要としている個人世帯に連携窓口を通し家庭へ届ける。
4 事業実施における数値目標 (中間報告書で示した数値)	【目標値】一人当たり 225 円 7月 食品購入予定額 27 万円分 個人世帯 1,200 名 8月 食品購入予定額 27 万円分 個人世帯 1,200 名 9月 食品購入予定額 27 万円分 個人世帯 1,200 名

<p>5 上記 4 の数値目標の達成度</p>	<p>【成果】 ※毎週月曜日に個人世帯に配布している実施数。 （ ）内は月の配布回数 7 月（3 回） 食品購入額 270,928 円 一人当たり約 221 円 407 世帯・1,225 名 8 月（4 回） 食品購入額 304,265 円 一人当たり約 169 円 580 世帯・1,802 名 9 月（2 回） 食品購入 560,66 円 一人当たり約 47 円 411 世帯・1,182 名 ★9 月末地点 食品寄付者数は目標の 117%達成 10 月（1 回） 食品購入 181,886 円 一人当たり約 470 円 108 世帯・387 名 合計 1506 世帯 4,596 名 ★10 月 14 日地点 食品寄付者数目標の 128%達成 助成額達成率 100.39% 一人当たりの助成額（計画 225 円） 177 円 予定を大幅に超えた人数への食品を配布できた。 人員配置できたことで、事業を滞りなく行うことができた。</p>
-------------------------	--

<p>6 事業の成果</p>	<p>9月に事業終了予定で食品購入を進めていたが、9月に大型台風が続けて襲来したこともあり、計画が2週間ほど遅れたが、それ以外は滞りなく事業が遂行できた。</p> <p>コロナ禍以前は、月平均1,200名への食品配布を行っていたが、助成期間中は依頼数が大幅に増大し、週平均400名、月平均1,600名の依頼となり、一人当たり225円の食品を配布予定でいたが、実際は一人当たり181円と少なくはなったが、達成率は128%で終えることができた。</p> <p>依頼が増えたことにより食品はさらに不足したが、食品を寄贈したいという企業の増加と本助成金で食品を購入することが可能と鳴ったことで、お米をはじめとするおかず類を購入し、栄養バランスの取れた食品を個人世帯へ配布することができた。</p> <p>また、この期間にも個人世帯とつながっている市町村の福祉や関連部署の窓口や子どもの居場所等との連携も増えたことで、予定よりも広く多くの那覇市を中心とする個人世帯へ食品を配布することができ、また当法人の活動理解も以前よりも広がった。</p> <p>県内企業を中心に食品の購入や寄付について相談できたことで、フードバンク活動への理解や関係性が深まり、余剰食品の相談や実際に活用することもでき、食品ロスの削減にもつながった。また、新規参加企業からの寄付も増えた。</p> <p>事業の人員配置を行うことができ、スムーズな事業遂行を行うことができた。</p>
----------------	--

<p>7 評価</p>	<p>① 良かった点、工夫したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でより不足している食品を本助成金で購入し、できるだけ栄養バランスが取れた内容の食品を必要としている個人世帯へ配布することができた。 ・コロナ禍で、個人世帯とつながっている窓口との連携が増え、予定よりも多くの個人世帯へ食品を配布することができた。 ・食品を購入するにあたり、県内企業を中心に食品について相談したことで、活動への理解や関係が深まり、購入ではなく、余剰食品の活用相談や実際に寄付を受けることができた。 ・活動を継続できたことで、新規企業からやしばらく寄付がなかった企業との関係を深めることができ、結果寄付食品も増えた。 ・伴い、余剰食品を有効活用できたことで、環境負担が減り、食品ロスの削減にも寄与できた。 <p>② 苦労したこと、改善点、今後に活かしたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口が増えることで、説明会や連絡することが増え、マンパワーが足りなくなった。 ・食品の寄付が増えたことで、食品の在庫管理や受け取り調整などの仕事が増え、マンパワーが足りなくなった。 ・食品を授受し使用する市民が、無償で食の支援を受けられるという慣れがでてきていると相談窓口からのお話を伺った。 ・フードバンク活動の社会への認知や理解の不足があると感じた。 ・事業が広がることで生まれた新たな課題は、SNSなどの発信により活動への理解を深める広報を積極的に行い、沖縄県の関係部署などへも共有し、支援や協働についてより一層強く求めていきたい。
-------------	---

<p>8 今後の展開 (継続、内容変更、終了など)</p>	<p>本事業は以下項目をもって引き続き継続していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本フィランソロピック財団助成事業から受けて助成金を活用。 ・沖縄県の食品ロス削減推進法策定の委員としての関わりを通し、沖縄県消費くらし安全課やこども未来政策課、農林水産部流通加工推進課などと、食品ロスの軽減や貧困問題などへのフードバンク活動の意義を深める機会を増やししていく。また、農林水産部を通して、令和5年度のフードバンク活動支援事業の申請を進めている。 ・令和4年度フードバンク活動強化緊急対策委託事業の中核団体として委託先になったこともあり、食品関連企業や子どもの居場所や食支援団体等ネットワーク強化の会議を進めていく。 ・沖縄県と女性を元気にする会が行う「トータルビューティ&相談会」のイベント会場にてフードバンクの活動の紹介や周知を行っていく。 ・コープおきなわが行う「フードバンク支援募金」やみらいファンド沖縄で作った基金への協力についてもSNS等で積極的にアピールしていく。 ・2022年10月11日に総合経済対策としてフードバンク支援を大幅拡大という政府発表に伴い、終了予定であった農林水産省のフードバンク支援緊急対策事業が4月以降も継続されることが決まり、今後も捻出できそうな事業に日は積極的な応募を行い、安定的な活動を目指していく。
<p>9 その他の意見、感想など</p>	<p>その他の課題</p> <p>世界的な規模のエネルギー問題や社会情勢、またコロナ禍による経済や円安などによる経済への影響により、さらに生活が苦しい方が増え、食品の支援を希望する家庭が今後も増加傾向にあり、フードバンクへ食品を求める声は今後も続くことが予想される。</p> <p>現在、さまざまな形態の食支援団体が増え、受益者にとっては地域で食品が受け取れることは良いが、食品のトレース問題や食品の管理や衛生に対する意識や知識の不足が懸念されてもいることから、ネットワークを通じて食の支援を行う際の勉強会などを行う必要があると感じている。</p>

